

ばい煙発生施設の使用の方法

別紙1と同じ施設番号を記載してください。

工場又は事業場における施設番号		No. 1		
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	8時～18時 4時間/回 2回/日 25日/月	時～時 時間/回 回/日 日/月	
	季節変動	4月～3月		
原材料 (ばい煙の発生に影響のあるものに限る。)	種類			
	使用割合			
	原材料中の成分割合 (%)	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分	いおう分 カドミウム分
	1日の使用量			
燃料又は電力	種類	特A重油		
	燃料中の成分割合 (%)	灰分 0.00	いおう分 0.35	窒素分 0.01
	発熱量	(総) 45.3MJ		
	通常の使用量	65L/h		
	混焼割合			
排出ガス量 (m <sup>3</sup> N/h)	湿り	最大 1039	通常 832	最大 通常
	乾き	最大 943	通常 756	最大 通常
排出ガス温度 (°C)		250		
排出ガス中の酸素濃度 (%)		5.0		
ばい煙の濃度	ばいじん (g/m <sup>3</sup> N)	最大 0.10	通常 0.07	最大 通常
	いおう酸化物 (容量比 ppm)	最大 180	通常 180	最大 通常
	カドミウム及びその化合物 (mg/m <sup>3</sup> N)	最大	通常	最大 通常
	塩素素 (mg/m <sup>3</sup> N)	最大	通常	最大 通常
	塩化水素 (mg/m <sup>3</sup> N)	最大	通常	最大 通常
	弗素, 弗化水素及び弗化珪素 (mg/m <sup>3</sup> N)	最大	通常	最大 通常
	鉛及びその化合物 (mg/m <sup>3</sup> N)	最大	通常	最大 通常
	窒素酸化物 (容量比 ppm)	最大 70	通常 60	最大 通常
ばい煙量	いおう酸化物 (m <sup>3</sup> N/h)	最大 0.17	通常 0.14	最大 通常
参考事項	重油の比重 0.8796	燃料の比重を記載してください。		
	常用・非常用の別	■ 常用	□ 非常用	ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関、ガソリン機関の場合には常用、非常用の別を明らかにしてください。

「A重油、「都市ガス(13A)」のように記載してください。

燃料成分表の数値を記入してください。なお、いおう分については石油メーカー等で保障している最大値を記載してください。

高位(総)発熱量の数値を記載してください。

単位を明記してください。

2種類以上の燃料を同時に使用する場合、その割合を重量比で記載してください。

最大は定格能力で運転するときの排出ガス量です。計算方法は別紙計算例を参考にしてください。乾きは湿りから水分を差し引いた量です。

原則として排出口における排出ガス温度を記載してください。

乾き排出ガス中の濃度を記載してください。ボイラーの場合は、ばいじん、いおう酸化物、窒素酸化物について記載してください。

空気比(空気過剰係数)を記載してください。

- 備考 1 原材料中の成分割合 (%) の欄及び燃料中の成分割合 (%) の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別をあらかじめすること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 4 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の排出抑制のために採っている方法を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常用において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること